



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行 2017年12月1日

12月号・第191号

奈良・人と自然の会

会長 鈴木 未一



エンドウ畑の準備（エコファーム）

Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることが出来ます

URL <http://www.naranature.com>



壮春力歩	1	字遊字感	9
多土済々	2	ギャラリーならやま	10
Monthly Repo.ならやま	3	ならやまプロジェクト	11
里山の今	4・5・6	行事案内 part 1	12
私のふるさと	7	行事案内 part 2	13
川井秀夫さんを偲ぶ会・報告	8	行事案内 part 3 & 行事予告	14
		幹事会報告・編集後記	15

壮春力歩

会長 鈴木 末一

◆ アウトプットとアウトカム

「アウトプット」と「アウトカム」という言葉が、いずれの公益社団法人や民間企業への助成金申請書に必ずといえるほど出てきます。従来、申請するのに、「このような活動に取り組みたい」という次元で纏めて提出すれば良かったのです。

しかし、近年、NPO法人や任意団体などの市民活動が活性化するにつれて、審査基準も高まりつつあります。助成金を活かした活動の継続によって、どのような変化が起こり、その変化によって、いかなる成果(効果)が生まれ、しかもその成果が、活動団体内にだけ認められるものではなく、地域社会などにどのように波及していくのか、などが明確でなければなりません。

従って、一つの助成金に対して何度も申請を続けて、初めて採用されるという状況にあります。現に当会でも、二度目も採用してもらえなかったものもありましたし、反面、一度目で採用してもらうことができたものもあります。ある助成金の交付式に出席した時、「6回目です」という団体のケースもありました。

ボランティア活動で多大な資金はいらないかもしれませんが、やはり必要最小限の資金は確保していかなければなりません。費用対効果ではありませんが、申請に当たって、関係の皆さんと共に叡智を絞っていきたいと思います。途中のプロセスの積み重ねが、スキルアップに繋がり、助成金の確保に結びつくと考えています。

そこで、「アウトプット」とは、大辞林などによれば、「産出したもの(成果や実績)」「外に出す」とあります。それで、「質の良い『アウトプット』を出すためには4つのポイントがあります。」①とにかく「アウトプット」をだす。②クォリティーを気にせず、「アウトプット」の数を増やす。③情報を外に発信する。④「インプット」したことを日常の中で取り入れてみる。事例として読書が当てはまります。本を読むだけではな

く、実際にアウトプットすると、その本から得たことがインプットへと還元されていくのです。

以上のことを纏めれば、目的や目標を明確にすること、即ち、何が本来の目的であるのか明確なイメージを作ることになるかと思います。

次に、「アウトカム(outcome)」について考えてみたいと思います。

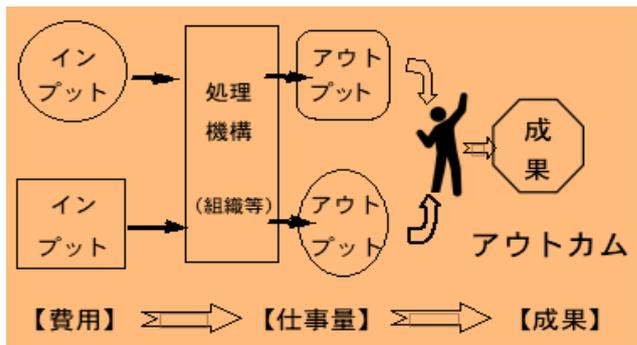
そもそも、成果という意味の英語で、研究がもたらす本質的な成果のことを指します。論文や特許の数よりも、実際に社会にどのような影響を与えたかを評価すべきだという考えから、注目されるようになりました。

つまり、出力結果を元にして獲得した“成果・効果”であります。アウトプットは「処理機構の都合で勝手に押し出されてくるもの」で、アウトカムは「誰かの主体的な活動によって生み出した(やってきた)もの」という理解をするとよいのではないのでしょうか。まとめると、「処理機構が出してきた」アウトプットを、「解釈し、それに応じて何らかの行動を起こした結果、得られた成果」がアウトカムということだと思います。従って、大切なのは、「アウトプットは誰かに依頼すれば出してくれますが、アウトカムは自分で意図して努力しないと出てこない」ということになります。

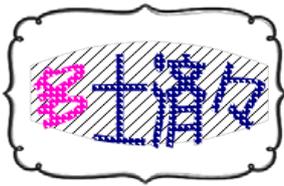
例えば、マーケティング部門が広告を作ってそれが世の中に出た、というのはアウトプット。それを見て、消費者が社名を認知し、自社商品を買ってくれた、というのがアウトカムです。

ボランティア活動において、「アウトプット」とは、「アウトカム」とは――。

この議論を深めたいものです。



人生を語るも年の暮くれらしく 稲畑汀子



“ならやまが” 好き！

岡崎節子 さん

顧問 阿部 和生

先日来ベースキャンプのテント部材のために伐採されたスギの皮むきを、数名の方と取り組んでおられました。あるときは相棒と組んで薪割り、西池を含む水生生物調査、エコファームの作業、里山でのお手伝いと岡崎さんはオールラウンドプレーヤーです。



その昔“ならやま”がベースキャンプ地候補の頃の下見のときに、現「彩りの森」から南に入る小径の奥で畑を発見。すらっとした長身で、トヨタ「RAV4」を運転されて通っておられたのが岡崎節子さんでした。ご主人共々畑仕事にいられていたのです。道路がササで覆われ、一人歩きが心配されるような場所での作業でしたから、びっくりして遠望していたことを思い出します。当時の畑作物は、たびたび収穫物が持ち去られるような状態であったと振り返られます。「他人の栽培品を持ち帰っておいしく食べられるのかな…、一声掛けてくれれば進呈するのに」と当時思われたそうです。

心優しいのでしょう。

運転免許は「二十歳台」の頃の取得だそうで「運転歴は長いですね、何台車を乗り換えたかしら？」と指折られます。車も好き、運転も好き、活発な若人であったことが想像できます。現在の岡崎さんはおとなしい運転ですが、若い頃はどうだったのだろう。「スピード魔」であったかもしれません？聞き漏らしました。にこやかな笑顔でさっと通り過ぎていくイメージがあります。

そのような昔を思い出すと岡崎さんは、この地に関わられた最初の方で、会員中最古参の経験者であろうと思えます。手入れされたきちんとした畑だった印象が残っています。

ご主人を亡くされ、畑の後始末をされておられたとき、この「奈良・人と自然の会」にお誘いし、会員になってくださいました。車こそいろいろと替わりましたが、今も颯爽とした姿は変わられません。銀髪がよくお似合いで、“ならやま”へのご参加は、ほとんど休み無しです。「この一帯は随分変わったわよ、良くなったもの、ここに参加して良かったわ！」と、昔も今も熟知した方の感想です。私も、とても嬉しくなりました。

昨年来幹事としてもご活躍です。ますます元気で通ってくださるよう切望します。

謹白 春先に池田敬二郎さんの訃報、9月に川井秀夫さんの急逝と悲しい事が出来ました。一方、みどりの式典に招かれ、平成 29 年度緑化推進運動功労者として「内閣総理大臣表彰」を授与されるという荣誉



にも浴した、悲喜こもごもの一年となりました。

川井さんと打ち合せながら交互に記載させていただいた「多士済々」のシリーズも、今回で終了といたしたいと思えます。何しろ豊かな人生経験をお持ちで、知識も技能も人間性にも富んだ会員の皆さまばかりで、登場していただく方に困ることのない団体ですが、新企画「私のふるさと」にバトンタッチをいたしたく思います。長年のご愛読、心より感謝申し上げます。

記念すべき表彰の写真を再掲させていただき、皆さま共々喜びに沸いた思い出とともに「さようなら」です。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

10月26日(木) 活動 晴れ 80名+6名

快晴。しかし、台風や長雨の影響が目立ち、あと片付けに追い回される。野山お構いなく被害甚大。昼食としてキノコご飯が供され、舌鼓を打つ。食欲の秋をまた満喫。打ち合わせでは来訪者の紹介のほか、土曜日に行われる「川井さんを偲ぶ会」の最終確認などが行われる。近大生3名、県から2名、そしてシニア生1名来訪。里山Gは倒木の処理など、エコGは稲刈りなど、そして景観G

はそばのはさ掛けつくりを中心に汗を流す。また、ビオ班は近大生を交えてタナゴ池の整備、花班は草引きやレンゲの種まき、その他パトGは4コース巡回と階段補修に励む。



11月2日(木) 活動 晴れ 76名+14名

好天とおいしいもの、今日はこの2つがかなえられる。オープンで焼いた焼き芋は誠に美味で、これだけで活動に来た甲斐がある。サイトの大桑

の木が台風のためか、見事に倒れた、寂しい。打ち合わせでは大桑の件や本日実施のそばの収穫に関わる協働作業の段取り、



その他午後來訪予定の東大阪山地保存協議会の紹介が行われる。視察では13名の会員が2時間余り、説明を聞いたり、質疑応答を行う。また、広いサイトをじっくり見学したが里山らしい里山が見学できてよかった、といった声が多く聞かれた。

各Gとも午前中のそば刈りの協働作業の他、里山Gは倒木処理や杉材の皮むき、エコGは芋掘りの他、野菜の追肥やり、そして景観Gはそばの収穫を行う。また、ビオ班は水生生物調査、花班は花の移植や草取り、そして、パトGは3コースの巡回のほか観察路の倒木処理に取り組む。



11月9日(木) 活動 晴れ 73名+3名

気持ちのいい活動日になり、活動の眼目はそばの脱穀と枯死木の伐採になる。打ち合わせでは行事の連絡のほか、来訪者の紹介が行われる。新聞記者が取材のため来訪との由。その他シニア生1名、近大生1名来訪。里山Gは枯死木や検査木の伐倒を、エコGは畝を作ってエンドウの種まきとイチゴの植え付け、そして景観Gはソバの脱穀を行う。また、ビオ班は池の整備、花班はミョウガの撤収やギボウシの植え替え、そしてパトGは観察路の整備や倒木処理に加えて2コースのパトロールに向かう。

11月16日(木) 活動 晴れ 65名+1名

暦に違わず寒い。だが今日は協働作業日。張り切って山に入り、松の下の草かきに励む。しかし歳には勝てず、なかなか作業も捗らない。来年の3月のデッドラインを迎えられるか、心配である。打ち合わせでは本日の協働作業の段取りや12月の忘年会の案内の他、アダプトプログラムの進捗状況の視察のため、奈良市からの視察の紹介が行われる。里山Gは杉の伐倒の他、枯死木の処理と花壇の枠の作製、エコGは野菜の収穫の他に畑へのチップ入れ、そして景観GはBC付近の草刈りを行う。その他ビオ班はレンコン畑や池の整備、花班はギボウシの植え替えの他ハンゲシヨウの撤去、そしてパトGは観察路階段の修復とパトロールに出る。

里山グループ

阿部 和生

◆竹材としての伐採の適期

晩秋から冬にかけて竹、本体の伐採の適期です。竹材として使用する場合は、水分含有が減少し、虫の害も少なくなり素材が長持ちします。作業の際のヤブ蚊やスズメバチ類も無関係、へび類も冬眠に入り快適な作業環境です。

竹の種類は日本で 50 種あるそうですがモウソウチク、マダケ、ハチクで 96%を占めますので、この 3 種の見分けや特徴を知っておくと後は楽です。

タケ（伐採前）は成長するにしたがって皮を落としますが、ササは皮を付けたまま成長するところで両者を区別するのが主流です。これらは地下茎を長く伸ばして茂ります（＝無性繁殖）。モウソウチク地下茎は 1 年で 6～8 m も伸ばすと言われ、手入れされずに藪化した竹林は隣接する里山林や畑、休耕田に進出し年率 7～8%の広がりを展開し、これらを飲み込んでゆきます。2000 年に奈良県が面積調査したとき、1979 年に比し天理市の 3 倍や桜井市では 2 倍の拡大と報告されています。管理放棄による生息域拡大の厄介な問題を抱えています。

タケの成長速度は速く他を圧倒します。筍の先端部とそれぞれの節にある成長帯が同時に成長します。モウソウチクですと 60 日で 15m ぐらいに伸びます。伸びきった後は樹木のように形成層がないので 肥大成長はしません。タケが大きくなるのは最初の年の 1 回限りです。地下茎を伸ばすのは 7、8 月～10 月くらいまで。ですから筍収穫後、残す筍に目印を付け不要筍を蹴飛ばしておくで手間を掛けずに整備ができます。

タケを積極的に利用したいときは、本数管理が大事です。筍を採る場合は 1 畝 5000 本程度、竹材を取る林は 7000 本程度といわれています。筍を本格的に採るところは農業的感覚、施肥や敷き藁土入れなど手入れが伴います。

竹資源の活用はまだまだこれからの課題です。



エコファームグループ

宮崎 まさ美

◆実りの秋・収穫の秋 10月26日

サクッと鎌を入れると切り株の紫色が目にも染みる。黒米ご飯のあの色がここにあった。今年の稲刈りは我々だけの作業だ。おぼつかない足取りで泥田と格闘、田んぼの泥は深い、歩くだけで大変だ。長靴が泥にとられる、人の手を借りてやっとこさ脱出。



子供たちがいたらどれだけ賑やかだろう。やっとのことで稲架掛け完了。次は芋ほりーこれも悪天候ゆえのイベント中止のせいで、会員だけで作業。2kg 超の大物が次々現れる。今年のイモは直立不動、土の中にまっすぐ立っている。掘りやすいというものの、やっばりけが人ならぬケガイモ続出。擦り傷、切り傷、ばっさり袈裟懸け。そこでリーダーの声。



「それくらいにして南京豆掘りに行こう、みんな掘り方が雑になってきたで」。…さすがリーダーよく見ておられる。子供たちならどれだけ喜んで掘ることだろうか。1 本 1 本丁寧に掘って、少しずつ姿を現す大きなお芋に歓声を上げて喜んでくれるだろうに。

南京豆畑、今年はネットのおかげでカラス(?)にはほじくられることなく収穫に至る。「南京豆は生食できるか?」一生産現場ならでは即実験。ふっくらよく太って薄紫の薄皮を被ったものはおいしい! 収穫はうれしい、しかし、疲れた……。

黒米は後日、男の方たちの臨時作業によって脱穀されました。南京豆は飛ぶように売れ、サツマイモはたっぷり皆さんの購入の手を待っています。

景観グループ

木村 裕

里山の今



パトロールグループ

木村 宥子

私たちが活動する「ならやま」にはどれくらいの野草が自生しているのでしょうか？

50種？ 100種？ 150種？ 200種？

ならやまをくまなく巡回しているパトロールグループの方に問うてみると、120～130種くらいは確認しているとのことでした。

本当にそれだけあるのかなと、周囲を見渡すと確かに10～20種はすぐに見つかります。

早春のタンポポ、カラスノエンドウから始まり、ヒメオドリコソウ、ハコベ、スミレ類、秋のヌスビトハギ、ススキまで平坦地で自生するといわれている野草はほぼ出そろっています。

ならやま里山林は海拔が低く、林も浅いためか山地の樹陰に自生する野草では、種類数は少なく、自生地も限られ、かつ個体数も少なく消滅する恐れがある種もあります。個体数の少ない野草についてはパトロールグループが囲いをするなどして刈り払い機や花盗人から守ってはいますが。



ニオイタチツボスミレ

現在野草調査を進めていますが、いろいろな種が最も多いのはベースキャンプの水路沿いで、ついで彩の森です。やはり水のそばが良い。

希少種やあまりお目にかからない種の開花情報は、パトロールグループから随時ならやまに活動に来ているメンバーには提供されています。

写真のニオイタチツボスミレは群落が見つかった年もありましたが、現在は減少しています。

山の中もいよいよ冬の準備を始めました。

秋には例年になく台風が多かったせいで、枝落ち、倒木が、たくさんありました。また、大きな枝が高いところにひっかかかっていて、いつ落ちてくるか分からないなどの危険個所もあります。

特に、自然観察路スタート地点③からコシダの辻を通して10Pまでの尾根づたいの道と谷道はひどかったのですが、ようやく安全に通れるようになりました。雑草もちよつと目を離すと道を覆い尽くすのですが、それもようやくきれいにしました。

山のいたるところにある階段は、木で一段一段その場に合わせて作りますが、次々に木が腐ってきてそのためのメンテナンスも結構大仕事です。横木とそれを支える杭を4本程度使って階段を作ります。土を削って横木を渡しますがソヨゴのような生長の早いやわらかい木を使うと腐りやすいので、ネジキなど固い木を使いたいのですが、簡単に手に入るというわけ



にはいきません。常々菊川さんが直してくださっていますが、傷みの速さはそれ以上です。修理の仕事の中では、階段用の横木(直径8cm x 130cm ぐらいの棒)を運び上げることが大変です。そこで、月に一度総出で横木を運び上げて修理をすることにしており、11月は2週目に皆で1日ばかりで取り組みました。その結果あと少しでお正月を迎えられるというところまで漕ぎ着けました。

山の中はウルシが美しく紅葉し、色々な種類のモダンな色合いのキノコもたくさんあります。昨年は皆伐地区にカブトムシの幼虫がたくさん見られたのですが、今年はどういうわけか数がとても少ないようです。もしかして温暖化の影響……？

ならやま虫だより

菊川 年明



ならやま花だより

桜木 晴代

◆ハナアブ

初冬を迎えると、目につく昆虫はほとんどいなくなるが、咲き残っている草花などにハナアブ(下の写真)の元気な姿を見ることができる。ハナアブは成虫で越冬するので真冬でも穏やかな日には活動している。〔注〕体長は約 15mm

ミツバチに似ているので刺すというイメージを持つ人もいるが、ハエに近い昆虫なので、人に危害を加えることはない。

また、ハナアブは名前にアブ(虻)が付いているので、人畜から吸血する恐ろしいアブのイメージもつきまとうが、心配ご無用の昆虫であることは前述のとおりである。

ハナアブは双翅目(翅が1対のように見え、後翅は痕跡程度)ハナアブ科の1種の昆虫であるが、ハナアブ科の昆虫の総称と紛らわしいのでナミハナアブと呼ばれることもある。アゲハチョウも固有の種の名前として呼ぶ場合と、アゲハチョウ類の総称の場合があるので、前者をナミアゲハと呼ぶことがあるのと同様である。〔註〕ナミ=並

また、ハエに近い昆虫なのにアブという名前はいかがなものかというわけで、一時期、アブバエに改名しようという動きがあった。九州大学の昆虫学研究グループが中心だったように記憶しているが、広まらなかった。大方の人がアブバエはただけでないネーミングと感じたからであろう。ちなみに、アゲハチョウ科に属し、春の女神と呼ばれて有名なギフチョウも同様の論理でギフアゲハにしてはどうかという動きもあったが、世間に受け入れられるところとはならず、いつの間にか立ち消えになってしまった。



【写真はハナアブ】

今年、将来ならやまのシンボルツリーになるであろうメタセコイアとラクウショウが2本ずつトンネル手前の三角地に植えられました。

この二つの樹木はよく似ており、識別が難しいと言われています。が、簡単な見分け方としては、ラクウショウは水辺に生え、気根があり、葉は互生。一方、メタセコイアは普通の環境で育ち、葉は対生で樹形は美しい円錐形、秋にはレンガ色に紅葉し、街路樹や並木としても利用されている。

「冬のソナタ」でも様々な場面で登場。また滋賀県高島市マキノのメタセコイアの並木は有名で、日本街路樹百景に選ばれています。

【メタセコイアの発見】

- 1941年に三木茂博士が、絶滅した化石植物メタセコイアを発見。
- 1946年には中国湖北省で植物学的に知られていない裸子植物が発見され、それが絶滅したとされていたメタセコイアと判明。
- 1948年アメリカの調査隊が中国で種子を採取し苗木を育成。
- 1950年アメリカより100本の苗木が保存会に贈られ、保存会は挿し木で苗を殖やし、全国に普及させた。

*日本のメタセコイアのルーツとなった木は交野市の大阪市立大学理学部附属植物園内にある。



ならやまのメタセコイア



平城山駅前の木

【メタセコイア】 ヒノキ科メタセコイア属
和名：アケボノスギ、樹高：20~30m、雌雄同種：
2~3月頃に黄色い花が咲く、果実：球果・果鱗は
十字対生・種子は7個

私のふるさと

思い出の堺を歩く

山中 笙子

最近、実家の墓参りや同窓会の打ち合わせなどで堺に帰る機会があり、旧堺の町を歩くたびに次々と記憶がよみがえり懐かしくなりました。

堺の名の由来は皆さんご存知のように、摂津、和泉、河内の三国の境に栄えた町からきています。近くに、三国の境にあり方位のない清地として、方除祈願で有名な方違神社（ほうちがひ）があり、よく参拝したものです。市庁舎北側の大小路筋（おおしょうじ）が摂津と和泉の境目で、大和川ではない。国境の石碑が立っており、初めて知って驚きです。高層ビルの市庁舎展望階から、東側に母校が、仁徳陵とその円墳西辺りに元実家が、西側に旧堺港が目にとび込んできて、頭が当時のモードになります。家族でよく御陵さんを一周し、また兄弟や近所の友達と魚とりやドングリ拾いなどで内濠に入り、「監視が来たー」の声であわてて外濠に逃げたことも思い出します。何とおおらかな時代だったのでしょか。

実家の墓参りの帰り、錦之町から南へ歩いてみました。旧堺を囲っていた環濠・土居川は南北に細長く続く土居川公園になっていました。その西側にある寺町は、元和、1615～24年の町割りで境内地を与えられ、南蛮貿易で財を成した豪商も寄進した彼らの遺産でもあるとか。本願寺堺別院には明治4年の廃藩置県から10年ほど堺県が置かれ、河内県、丹南県、奈良県も県域に入っていました。明治14年に大阪府に合併され堺県は廃止。この経緯が今も府とギクシヤクする所以でしょうか。

すぐ近くに妙國寺があり黒田官兵衛や信長、秀吉が鉄砲買い（堺県庁碑）

つけの商談場所として滞在し利休の接待を受けたとか。当時の堺では、寺院は信仰の場所であると共に政治や町の産業と結びつく場所でもあったそうです。

「京は著（き）て果て、大阪は喰うて果て、堺は

建てて果てる」の言葉どおり、「夏の陣」後の焦土に最初に建てられた堺商人の豪邸「山口家住宅」（国の重要文化財）が残っています。へつついさん（かまど）のある土間の高い天井に渡された太い梁の立派なこと！

南の甲斐町（かいのちょう）、大町（おおちょう）へ。子ども心に不思議だった開口神社（あぐち）の「大寺さん」という呼び名は、746年に行基さんが境内に念仏寺を、806年には空海さんが宝塔を建てたと書物にあり納得です。この辺りは堺出身の与謝野晶子も



(開口神社)

親しんだ場所で、生家跡碑が立ち歌碑も多く残されているそうです。

さらに南の宿院町は、利休や名匠たちが生まれ育った場所で、妙法寺、南宗寺は彼らの茶の湯の原点といわれ、今もしばしば茶会が開かれています。千利休屋敷跡もあります。最近、ここに「さかい利品の杜」が建てられ、利休や晶子の足跡が展示され、解説、紹介もされています。エントランスフロアには1863年の堺市街図が描かれています。「堺は堺のやり方で。それが何か？」とよく聞くけれど、二人の生き方でもあったらしい。

幼き頃の私にとっても身近な所で、阪堺電車や南海電車に乗って、出島にあった祖父母宅へ行き夏休みを過ごしました。家から水着姿で海へ、帰ってきてはお風呂にドボン。ご馳走になったスイカ、イチゴ氷、ウナギの肝の煮付けなどが頭に浮かびます。叔父や叔母にも可愛がられて本当に幸せな時代でした。そんな浜はもうありません。昭和30年代から40年代にかけて公害の元と言われた泉北臨海工業地帯ができ、時代が変わり今では工場の夜景スポットとして楽しまれています。

「ものの始まりなんでも堺」と言われるように、堺は、鉄砲、包丁刃物、自転車、線香、三味線、瓶詰め酒、おぼろ昆布などの発祥の地。♪ほんにそやそや そや堺♪なんて盆踊り歌も思い出されます。これからも時間を見つけて、ふるさとを歩こうと思っています。（『堺を歩けば』参照）



「川井秀夫さんを偲ぶ会」報告

古川 祐司

「川井秀夫さんを偲ぶ会」は10月28日17時、ホテル・リガール春日野「天平の間」で執り行われた。会場には満席の72人が集り、別れを惜しみ、故人の在りし日を偲んだ。

《お別れの式の部》



ご遺影を前に全員で黙祷。参会者は、それぞれの思いを胸に、ご逝去を悼み、ご冥福を祈る。



鈴木会長「お別れの言葉」「ならやま・ユートピア構想」を実現し、新世代へ引継いでいきたいと。



シニア自然大学校・顧問の斎藤隆さん。「シ大創立時の功労と、奈良の地域に根差した環境活動を称える。

《懇親会の部》

阿部顧問の挨拶、続いて藤田顧問の献杯の発声で懇親会が始まる。阿部顧問は発足以来の同志。会の歴史ともいべき数々の話が披露される。



続いて、親交あった方々が思い出を披露された。



寺田正博さん
初めて当会が手掛けた森林整備「忍辱山間伐事業」を熱く語られる。



弓場厚次さん
例会事務局、のらの会幹事長として故人を支えた。胸に溢れる思い出を語る。



西谷範子さん
創生以来の同志、自然環境保全活動のベテランとして豊富な知見で会に貢献。



水本遼真さん 佐保台地区連合自治会長の時代に、ならやまプロジェクトに参加、地元住民との繋ぎ役を果たされる。



中井弘さん
遺愛「川井桜」の桜守を自任。故人に歴史の目を開かされ、歴文クラブ世話人



吉川利文さん
俳句百景の愛読者。故人の注釈を絶賛され、回向文を手向けていただいた。



故人を偲ぶ話は尽きなかったが午後8時、森副会長の閉会挨拶で終了。参会者は、故人の熱い思いを確かめ受け継いだ一日であった。

遺族の川井克紀様から以下の謝辞が寄せられた。
「父が素晴らしい仲間囲まれ、充実した半生を送ったことを知りました。ご交誼を頂いた皆さまに心からお礼申し上げます」





簡単につくれる 自家製堆肥

木村 裕

我が家では剪定した垣根のウバメガシの葉や小枝と台所で発生した野菜くずを活用したエコ堆肥を作って重宝しています。その方法を紹介しますので一度試してみられては。

一口で言えば、肥料袋の中に落ち葉と野菜くずを交互に詰め込んで、あとは3か月待つだけ。いたって簡単です。

材料：

- ・ 細かく切ったウバメガシの葉と小枝。
- ・ 台所から出た野菜や果物の屑、庭で引きぬいた雑草など。
- ・ 使用済の肥料や園芸用土の袋。

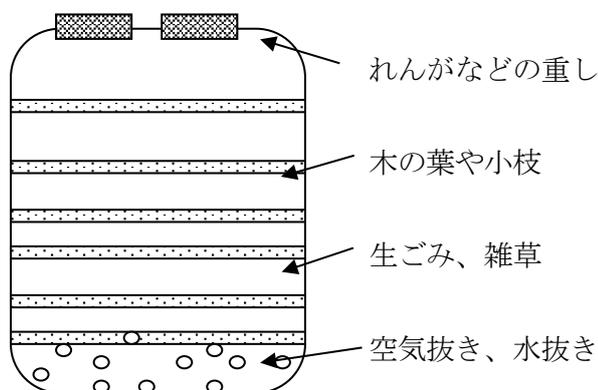
作り方：

(1) 細かく切った枝葉は大きな袋に入れてしばらく放置し、色が褐色になって枯れた物を利用。

(2) 肥料などのビニール袋の下1/5の範囲内をドライバーまたは千枚通しでブスブスと突き刺してたくさんの穴をあける。これは水抜きと通気のためで重要です。

(3) 色が変わって枯れたウバメガシの葉や小枝を投入する。厚さ5~10cm程度。

(4) 生ごみを入れる。全体に薄く広がる程度。



(5) 以後、両者を交互に入れる。葉っぱ3に対し、生ごみ1程度の割合。

(6) 袋がいっぱいになれば庭の隅、建物の陰などに放置する。袋の上にレンガ2枚程度の重しを置くこと。

(7) 3~6か月すると容積は1/3~1/4くらいになり、これでほぼ出来上がり。

(8) 堆肥としてばらして土に混ぜ込んで使用。

ポイント：

(1) 落ち葉を公園などから集めてくるのも一つの方法。

(2) 利用する木の葉は、広葉樹なら何でもよいが、針葉樹のマツやスギは避ける。

(3) 生ごみの水分が多い時には少し乾してから投入する。スイカは水分の塊ですので要注意。

(4) 生ごみの量が多すぎると嫌気性醗酵を起こして腐敗して悪臭を発生し、イエバエなどのウジが発生するので注意！注意！

(5) 水抜きの穴が少ないと、内部に野菜くずから出た水がたまり、木の葉が腐らない。

(6) 落ち葉が十分にあると、空気の流通がよいので悪臭を発生することはない。しかしときどきウジがわんさと発生することがある。これはコウカアブと言うアブの幼虫で何も問題はない。虫が嫌いな方は堆肥が出来上がるまで袋を開けないことです。



左が完成品、右が始まり

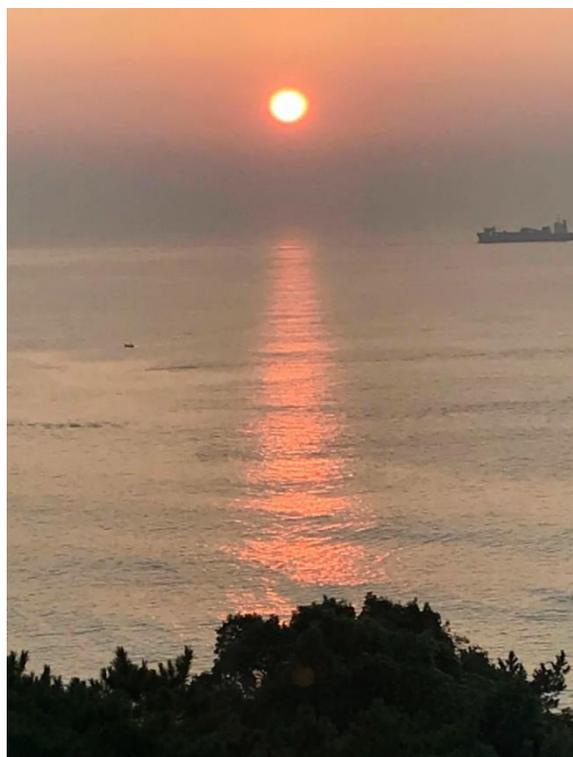
その他：

木の葉のみを詰め込んでおけばよいように思われますが、これだけでは何時までたっても腐ってはくれません。野菜くずが加わることによって腐敗が始まります。

この堆肥づくりで我が家では剪定した庭木の葉や枝はすべて利用し、生ゴミの減量化にもなっています。



Gallery ならやま



▲写真「桂浜の日の出」 小島 武雄



▲水彩画「万博公園にて」 八木 順一



▲写真「巖冬花」 中井 弘



▲ならやま産ガマで作った敷物 守口 京子

皆さまからのご応募をお待ちしています。
絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品・
パッチワーク・切り絵・自然工作など



▲自然工作 田中 克彦

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動予定日

12月	7 (木)	14 (木)	21 (木)
1月	11 (木)	18 (木)	25 (木)

- ◆ 場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地（県有林）
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

◆アクセス

- ① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10分
 - ② 近鉄奈良駅：バス 13 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）
 - ③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 JR奈良駅西口行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7分

◆携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）



◆ 環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参ください。



◆ 連絡先：八木 順一

里 山

12/7

「協働作業」松林の土掻き・アダプトプログラム
楢木の伐倒／下草刈り／薪割り
里山林の調査

14

楢木の伐倒／枯死木の伐倒／薪割り
下草刈り／里山林の調査

21

迎春準備
倉庫内の整理・整頓



エコファーム

12/7

「協働作業」松林の土掻き・アダプトプログラム
芋煮会の準備
里芋、大根（YRくらま）などの収穫
そば：実りの森そば畑耕運

14

冬野菜の収穫、チップ入れ
そば：実りの森そば畑耕運

21

迎春準備、里芋、葉ぼたん
冬野菜などの収穫



景 観

12/7

「協働作業」松林の土掻き・アダプトプログラム
整備：ならやま大通り竹林整備
ビオ：タナゴ池水抜き、調査
はな：山野草園の整備、棚作り

14

整備：ならやま大通り竹林整備
ビオ：西池生物調査
はな：駐車場横整備，秋明菊
箱根ウツギ植え込み

21

整備：ならやま大通り竹林整備
ビオ：池の整備
はな：道路際草取り整備／正月向け整備作業

パトロール

12/7

「協働作業」松林の土掻き・アダプトプログラム
観察路整備、丸太階段補修

14

丸太階段補修（全員）

21

案内表示板補修、倉庫、棚の整理





行事案内 part 1

12月・月例研修会
斑鳩三塔・藤ノ木古墳めぐり

晩秋の矢田丘陵を背に法隆寺・法輪寺・法起寺の塔は「いかるが三塔」と呼ばれ、独特の造形美を作り、いかるがの里に彩りを付けています。6世紀よりこの方、盗掘にあうことなく斑鳩の地に眠っていた藤ノ木古墳を、斑鳩文化センターにて学芸員の説明を受け、古墳も見学します。

1. 実施日：平成29年12月12日(火)

降水確率60%以上は中止します。

2. 集合場所：JR法隆寺駅改札口9時30分

3. 行程：JR法隆寺駅→法隆寺Iセンター

- 斑鳩文化センター→藤ノ木古墳→西里町並み
- 法隆寺西円堂→法隆寺五重塔→東大門
- 天満池(昼食)→法輪寺→法起寺
- JR大和小泉駅3時頃

4. 持ち物：飲み物・弁当・雨具・観察用品
など

法隆寺五重塔(国宝)：日本の塔の中で、最古で、しかも最も美しいとされる塔である。総高32.45mである。

法輪寺三重塔：7世紀末頃の建立だが、1944年の雷火で焼失、1975年西岡常一らによって再建。

法起寺三重塔(国宝)：高さ24m。706年、三重塔としては日本最古です。

担当：上西千代子・岡崎節子・富井忠雄

連絡先：富井

当日は17時より忘年会があります。

ご参加お待ちしております。



(法隆寺)



(法起寺)



忘年会のご案内

月日の経つのも早く、今年も残り僅かとなってきました。恒例の忘年会を下記の通り開催することになりました。

本年、節目の年を越え、「夢と未来」へ向けた新たな時代へ歩み始めました。「癒しと憩いの空間」「ならやまユートピア」構想を具現化し、地域社会の一員としての広がりのあるものに努めていく出発点と考えています。初心を忘れず、新しい会の未来像について大いに語り合い、より良いステップ・アップが実現できるような集いにしたいと思います。

何かとご多用のこととは存じますが、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますようお願いいたします。

1. 日時：平成29年12月12日(火)
17:00~19:30

2. 会場：ホテルリガール春日野
奈良市法蓮町757-2
TEL 0742-22-6021

3. 会費：4,000円

4. 申込：12月2日(土)までにお願いします。
青木幸子

のいずれかをお願いします。

5. アクセス：JR奈良駅前と近鉄奈良駅前より
下記の時刻にホテルのチャーターバスが出ます。
JR奈良駅 16:00
近鉄奈良駅 16:10

もしも乗り遅れた時は、路線バス(西大寺行き)にご乗車の上、佐保小学校前で下車、直ぐ前です。

JR奈良駅西口(15番乗場) 16:22

近鉄奈良駅前 (13番乗場) 16:29

6. 幹事：富井忠雄、小島武雄、青木幸子



行事案内 part 2

芋煮会のご案内

～伝統里芋を味わおう～

鮮やかな紅葉の季節となりました。エコファームの冬の野菜の種蒔きも無事に終わり、芽生えの美しさにありがたく思い、野菜の成長と収穫を楽しみにしています。

さて、芋煮会で提供される里芋は、エコファームグループが、春から夏にかけて、除草、土寄せ、追肥、真夏の水やりと、心を込めて管理してきた、甚五右エ門芋（通称ならやま芋）と越前大野芋という伝統里芋です。

種芋の保存や土作り、夏場の水管理、連作回避などに心掛けて有機無農薬栽培に取り組んだ。エコファームグループの野菜への愛情と努力の甲斐があつて上々の出来栄です。

甚五右エ門芋をベースに、国産牛肉、牛蒡、人参、大根、椎茸、蒟蒻がたくさん入った芋煮は、最高においしいと思います。

また、佐保台小学校5年生と会員の皆さんが丹精込めて作った、黒米入りのおにぎり、じっくり炊き上げられた大根焚きも味わってください。

会員の皆さまのご参加をお待ちしています。

1. 日時 12月7日(木) 12時～
雨天時 12月14日(木)
2. 場所 ならやまベースキャンプ
3. 持ち物 お椀 皿 コップ 箸など

エコファームグループ 萱野 勉



12月・歴史文化クラブ研修会ご案内 「地元史の探訪と座学」

～菅原町周辺探訪・奈文研見学と座学～

12月の研修会は、菅原町一帯の史跡を歩きます。この地は、野見宿禰の流れを汲む土師氏の居住地でした。一族の菅原氏は、781年、居地の名「菅原」を氏とすることを朝廷に願い出て許されました。

①喜光寺(菅原寺)：僧行基の創建した寺で、また終焉の場所でもあります。ここで副住職の高次喜勝様の講話を拝聴します。(拝観料 500円、但し、「ななまるカード」(老春手帳)呈示で無料)

②菅原天満宮：菅原道真公の誕生地です。近くには道真が産湯を使ったといわれる井戸もあります。

③菅原東遺跡埴輪窯跡：古墳時代後期(今から約1500年前)の埴輪を焼いた窯跡です。

④西大寺奥の院(法界躰性院)：叡尊上人の御廟所で、高さ3mを超える巨大な「五輪塔」(重要文化財)が設置されています。(下の写真)



午後は、奈良文化財研究所で、資料館の見学と講義を予定しています。

(実施要領)

1. 日時：12月17日(日) 9時近鉄尼ヶ辻駅
2. 午前の部：現地踏査、西大寺周辺で解散
3. 午後の部：13時、平城宮跡資料館前に集合
見学と講義 奈文研副所長 渡辺 晃宏氏
4. 担当世話人：鈴木末一、古川祐司
5. 参加申込先：古川
6. 「ななまるカード」(老春手帳)をご持参下さい。



行事案内 part 3

1 2月自然教室 観察会のご案内

初めてのムササビの観察会です。夜の奈良公園のとある所でムササビの滑空をみる事ができるということで企画したものです。が、実は今回の案内役の二人はまだムササビを見たことがありません。事前に、二人で自然観察指導員奈良連絡会主催の「ムササビの棲む森を観察しよう」に参加し、勉強した上で参加の方々をご案内する事にいたしました。

ムササビ

リス科モモンガ亜科に属するものの総称

分布：日本

生態環境：森林地帯など

体長：27～49 cm程度

尾長：28～42 cm程度

体重：700～1500 g 程度

特徴：*左右の前肢と後足の間には大きな飛膜があり、下腿下部から尾の基部、前肢と頸側の間にも小さな飛膜をもっている。

*ムササビはこの飛膜をうまく使って樹木の間などを滑空することができる。

*滑空距離は10mの高さから無風状態では15～20m、風にのれば100～200mもの距離を滑空することができる。

*夜行性

*雑食性（昆虫類・鳥の卵・果実・木の実・木の葉・樹液や種子・花・菌類）

1. 実施月日：12月25日（月）
2. 集合場所：近鉄奈良駅前 行基像前
3. 集合時間：16時
4. 解散時間：観察終了時
5. 持ち物：双眼鏡・飲み物・防寒着・懐中電灯（ムササビを驚かせないために赤いセロハンで電灯を覆う）
6. 実施の判断：前日のNHK夜の天気予報で奈良北部の午前午後どちらかの降水確率が60%以上の時は中止

担当：山本美智子・桜木晴代



新春講演会 (予告)

例年1月に実施しています今年度の「新春講演会」は、京都光華女子大学こども教育学部教授の菅井啓之先生をお迎えして開催します。

「自然からいのちのあり方を学ぶ」

◆ 菅井先生のプロフィール：

- ・主な担当科目：理科、生活、保育内容（環境）
- ・研究テーマ：身近な自然の教材化を通した生き方に返る自然教育
- ・メッセージ：自宅から駅に行くまでも街路樹があり、道端に草が生えていたり、カラスが電線に止まっていたりと、身近な自然はどこにでもあるものです。でも見ようという気持ちになかったら何も見えません。眼差しを注げばとても素晴らしい身近な自然に触れることができます。すると、見える世界が変わってきます。私たちが様々な事柄を学ぶのは私の世界の見方を広げたり深めたりするためです。世界の見え方が変わると、私の意識が変わり、行動が変わり、私の生き方が変わってきます。身近な自然への眼差しが私を変える原動力になるのです。面白いですよ！

◆ 講演会概要

1. 日時：平成30年1月13日（土）
10時～11時40分
2. 会場：奈良市生涯学習センター（学習室）
奈良市杉ケ町23
JR奈良駅から南東へ徒歩10分
3. 演題：「自然からいのちのあり方を学ぶ」
4. 講演内容：目の前のいのちの営みから全体の自然について考えようをテーマとした講演会。「自然をみるとはどういう事なんだろう」といったことから始まり、見る、観る、看る、視る、診る、「みる」にも一杯ありますね。自然と関わるもの見方も一杯あります。そのような論点で展開される予定です。

乞う！ご期待！

平成29年・11月度幹事会報告

日時：10月31日(火) 14:00~17:00

場所：奈良市中部公民館 2F 学習室

出席者：18名 欠席者：4名

I 会長挨拶：

- ・台風でコナラや桑の木が倒れた。処理依頼中。
- ・永年継続会員記念植樹：植樹時期と樹種を検討。
- ・シニア自然大学の環境保全活動発表会
12月5日(火) 鈴木会長が発表。

II 事務局・会計報告

- ① 会員数：150名(入会者3名、退会者3名)
- ② 会計報告：9月度収支報告、予算執行状況
上期を終了し、特に問題なし。

III 活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1. 3か月及び当月スケジュールの検討と確認
 - ・新春講演会：1月13日(土) 生涯学習センター
講師は光華女子大・菅井啓之先生。
 - ・忘年会は12月12日(火) ホテルリガール春日野。
2. ならやまプロジェクト関係：配布資料説明
協働作業：11/2 ソバ収穫、11/16 松茸山
3. 活動報告と予告
 - ① 月例研修会 12/12 斑鳩三塔巡り(予定)
 - ② 歴文研修 11/14 飛鳥の古墳(会報記事参照)
12/17 地元探訪と座学(予定)
4. イベント(報告と予告)
 - ① 10/14 芋掘りイベント：雨天で中止
外部との対応に反省点あり、対策が必要
 - ② 10/19 佐保台小学校5年生体験学習(稲刈)
雨天で中止、26日に会員のみで実施
 - ③ アダプトプログラム：年度内に花壇を設置
 - ④ 11/30 第8回新そば祭り
5. 助成金・交付金事業進捗状況説明
6. 企画会議 助成金、交付金、等についての
会議を今年中に設定したい。

IV 広報関係：

- ① ネイチャーなら12月号編集内容確認

V 懸案事項：特になし

以上

次回幹事会は11/28(火) 14時~

奈良市生涯学習センター

◆ 申し合わせ ◆

- * 通常活動日【木曜日】や屋外のイベントは、前日19時前のNHKの天気予報で、**当該地域の午前**の降水確率が**60%以上の場合**、中止とします。
- * 通常活動日が中止になった場合は、翌日【金曜日】を振替活動日とします。
奈良県北部の降水確率は、奈良気象台17時発表。(<http://www.jma.go.jp/jp/yoho/335.html>)
- * 臨時活動日を月曜日にする事があります。
(事前に担当役員から連絡します。)

1月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木)
1月11日 初出式
- * 歴文研修会
1月9日(火) 三輪山登拝
- ※ 1月13日(土)
新春講演会 菅井啓之先生
- ※ 1月20日(土)
シニア自然大学校進路ガイダンス



◆ 師走

旧暦十二月の異称。僧(師)が馳せ走る月だからなど、語源には諸説がある。

色々行事が重なり忙しい季節ですが、インフルエンザなどの予防に注意して、健康にお過ごしください。(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第191号

発行：奈良・人と自然の会

会長 鈴木 末一

URL：<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平